

書評

『蘭学者 川本幸民』 厚生労働大臣 舛添 要一

八月十日、北さんより、「舛添厚生労働大臣が、白洲次郎に続いて、またも拙著の書評を書いてくださいました。謹んでご報告申し上げます。」とのメールを頂きました。一国の大臣もこの書を読み、特に若い方々に勧めておられます。今、NHK大河ドラマで、『篤姫』を放映していますが、正にその時代で、その舞台上に登場してもおかしくない人物です。是非ご一読下さい。

2008年(平成20年)
8/1 (金)
第26157号
©日本電気協会2008

電氣新聞

ENERGY & ELECTRICITY

蘭学者 川本幸民

北 康利 著

PHP研究所
1785円

本棚から一冊



評者 厚生労働大臣
舛添 要一



幕末明治維新には、綺羅星のごとく人材が輩出している。それは、薩長側のみならず、徳川幕府側においてもそうである。しかも、旧体制で活躍した人々を新体制は積極的に登用した。榎本武揚がその典型であり、ここに日本の近代化の誇るべき点がある。

幕末における日本の近代化は、西欧の学問や科学技術の導入によって始まる。その一端を担ったのが、杉田玄白をはじめとする蘭学者であるが、本書は、「化学」という言葉を日本に定着させた川本幸民についての伝記である。著者は『白洲次郎 占領を背負った男』で文壇での地位を確立した北康利である。

氏は最近、証券会社を退職して文筆業に専念することになったが、読者にとっては、次の著作が期待できている。幸民は出世して喜ばしい限りである。川本幸民は、兵庫県三田(さんだ)市、ささらには、ビールの当時の摂津国の三田藩の藩医の息子で、江戸に出て医学の修行をするが、日本一の蘭学者徳川幕府の蕃書調所の

「真理の探究」にすべてをかけた男

教授となるが、多くの友や弟子にも恵まれた。福沢諭吉や緒方洪庵などは友人として交流を深めるが、松木弘安(後の外務卿寺島宗典)などが彼の門をたたいた。

本書は川本幸民の生涯をたどるとともにペリーの黒船来訪、安政の大獄、薩英戦争、大政奉還、戊辰戦争など幕末明治維新史が描かれており、近代日本の生みの苦しみが伝わってくる。そのような激動の歴史のただ中で、真理を究めるといふことに生涯をかけた一人の蘭学者の功績が、北氏の筆によってみごとによみがえってくる。幸民のような偉人たちが、おかげで近代日本が、欧米列強の植民地と化さずに済んだのであり、戦後の急速な復興も幕末以来の学問の蓄積があったからである。本書を、とくに若い人たちに勧めたい。

さんだ人物誌第二弾

小寺泰次郎物語好評発売



三田本町の裏手に小さな公園があり、そこには似つかわしくない大きな、立派な石碑があります。その碑文には「小寺泰次郎」の文字が刻まれています。また、天神公園の一角に、立派な石碑があり、ここにも小寺泰次郎の文字が刻まれています。一体、小寺泰次郎とは如何なる人物か?



どなど、美しき、規模の大きさに目を見張ります。そして、パンフレットには、何と、三田藩士、小寺泰次郎の邸宅であったと書かれています。

三田学園に關係のある方には、確か、創立者は小寺健吉と言ったように思うがと、おぼろげながらもご存知の方が多いのではないのでしょうか。神戸に行けば、日本庭園として有名な神戸市立相楽園があります。その門の立派さ、中に入ると、右手に鬱蒼と茂る蘇鉄園、正面には天を覆うような見事な楠木、その下には一際大きな石灯籠な

また、お墓は高次にある興聖寺というお寺にありますが、広大な敷地に、柵が三重にめぐらされ、周囲に大きな灯籠を随所に配置し、中段の中央に父親、弥五太夫などとともに並んで設けられ、その奥には一際立派な、小寺家の墓と書かれた納骨堂が配置されています。北康利著、『北撰三田の歴史』に依れば天皇家よりも大きなお墓とのこと



このような史跡から小寺泰次郎の立派さ、スケールの大きさが窺い知れます。果たして、小寺泰次郎とはの疑問に答えてくれる格好の冊子が出来上がりました。

本書は三田学園の協力を得、三田学園の中学生に理解できる内容とし、本文は当会副会長の高田義久氏が、絵はヌーベルキリ絵の会が担当、ふるさと読本シリーズ第二作と



た泰次郎は福沢諭吉の説く理想的学校の建設を念願していたが、志半ばにして没した。

いう位置付けで作成されたものです。本書はカラーA5版、三十二ページ、二千部で、さんだ観光案内所および相楽園で、三百円で販売していますので、是非ご購入下さい。



父の意志を引き継いだ謙吉は欧米に留学し、自由な教育環境に触れた感動を、三田で、英国式教育を下敷きに、藩校造士館の伝統を受け継いだ学校の設立を計画し、明治四十五年に文武両道の理想



の学び舎、私立三田中学校が開校した。謙吉の「将来日本の運命を負荷するに足る人材を育成せん」と言う教育信条と、「質実剛健・親愛包容」という、建学精神は今に至るまで、脈々と受け継がれている。

お知らせ
川本幸民祭り(9月14日(日))

- 【講演会】時間 10:00-12:30 場所 中央公民館
- ・講演会『日本の歴史を動かした「蘭学者川本幸民」と足跡を訪ねる』講師 大阪大学名誉教授 芝 哲夫
- ・主催 ㈱ドラマ九鬼奔流で町おこしをする会
- 【英語講座】時間 14:00-15:30 場所 キッピーモール6F多目的ホール・費用 大人 五百円・高校生以下 三百円・仮題『九鬼秘伝 海を求めて』・講師 旭堂南陽・主催 三田市国際交流協会
- 三田学入門講座 場所 中央公民館
- ・10月11日(土) 13:30-15:00 『和洋折衷の九鬼家住宅を設計、明治の鉄道誕生と九鬼隆範』
- 講師 郷土史家 藤田 裕彦
- ・10月18日(土) 13:30-15:00 『九鬼家と藩の舵取りを行った大参事「白洲退蔵」』
- 講師 郷土史家 高田 義久
- ・10月25日(土) 13:30-15:00 『進取の気風を育んだ三田藩士と宣教師の出会い』
- 講師 関西学院大学名誉教授 小林 昭雄